



人とともに 地域とともに  
国立大学法人

島根大学

未来につながるドアを開けよう

SHIMANE UNIVERSITY

SMART20 Twenty

島根大学のビジョンと戦略

—地域に活き世界で輝く大学を目指す新たな展開と挑戦—

2016

島根大学

[www.shimane-u.ac.jp](http://www.shimane-u.ac.jp)

出雲キャンパス

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

TEL:0853-23-2111(代表)

松江キャンパス

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

TEL:0852-32-6100(代表)

p01 INDEX

p03 VISION

SHIMANE UNIVERSITY  
**SMART20** Twenty

p05 POLICY

理事 荒瀬 榮 (教育・学生支援担当副学長)

p07 理事 秋重 幸邦 (企画・学術研究担当副学長)

p09 理事 藤田 達朗 (総務・労務担当副学長)

p11 理事 松浦 晃幸 (大学経営・財務担当)

p13 理事 井川 幹夫 (医療・附属病院担当副学長)

p15 理事 江口 博晴 (社会連携担当)

p16 副学長 武田 信明 (教育・入試改革担当)

p17 副学長 出口 顕 (国際交流担当)

p18 副学長 佐藤 利夫 (地域連携・貢献担当)

p19 副学長 大平 明弘 (医学・医療系の将来計画担当)

p20 監事 千家 充伸

監事 篠塚 英子

p21 島根大学のビジョンと戦略



## 地域に生き世界で輝く大学を目指す 新たな展開と挑戦

全国の国立大学においては「法人化の長所を生かした改革の本格化」のための第2期中期目標期間を経て、「持続的な“競争力”を持ち、高い付加価値を生み出す国立大学へ」と変革が求められる第3期中期目標期間が今年度から始まりました。

島根大学では、新たな中期目標期間が始まったこの機に、島根大学の将来ビジョンと経営戦略「島根大学未来戦略」を策定し、その概要を「SMART20」としてまとめ、大学の将来ビジョン・行動戦略を明確化した上で、地域を含むすべてのステークホルダーや教職員等学内外に公表することにしました。そして、「SMART20」に基づき、本学の教職員・学生全員が「変わる勇気」と「強い意志」を持って新たなステージを開拓するために挑戦を続け、地域に生き世界で輝く大学を目指します。

Hattori  
Yasunao

平成28年9月  
島根大学長 服部 泰直

# SHIMANE UNIVERSITY

# SMART20

Twenty

「島根大学」のローマ字つづりの中には、「活発」「機敏」「賢明」という意味を持つ「SMART」というキーワードが含まれています。島根大学が描く未来戦略20項目を、「SMART20」と名付けました。

## 地域へ、そして世界へ。

## 将来ビジョンに直結する、島根大学の未来戦略。

島根大学は、大学としての強み、特色、地域との協創を強化し、地域活性の中核としての機能を充実させ地域の創生に貢献するとともに、特定の分野において世界をリードする教育研究拠点として確立していくため、将来ビジョンと行動戦略を策定しました。それが、「島根大学未来戦略(SMART20)」です。「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝くオンリーワンの大学」を目指し、地域、世界で活躍できる学生を養成することによって、平和で活力ある社会の維持・発展に貢献していきます。



## 基本ポリシーに基づく学士課程教育による確かな学士力の養成

### 学士課程教育の充実

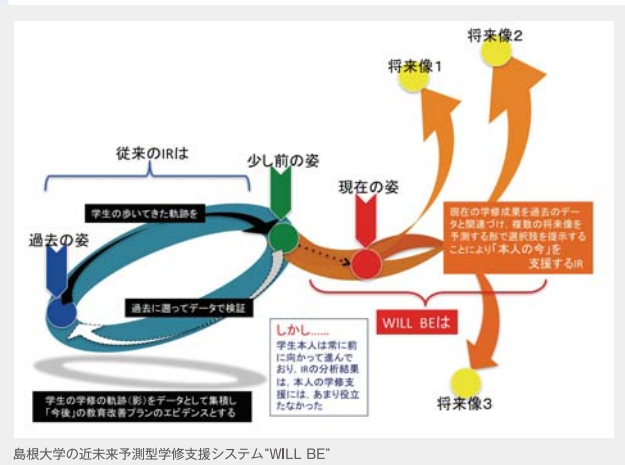
能動的授業を全学で展開し、学生の主体的学修を促します。学修成果を多面的に評価するとともに、厳格な成績評価を実施し、単位の実質化を図ります。また、到達目標と学習成果の関係を学生に示します。このような取り組みにより、確かな学士力を備えた学生の養成に努めます。

### 学士課程教育の質保証

教育の内容、方法、評価及び点検を実施する組織体制の充実を図りながら、教養及び専門教育の見直しと改善を行い、その成果を公表します。また、卒業生による大学教育アンケート等を通じた教育効果の検証にも努めながら、その結果に基づいた学士課程教育の改善と充実により、教育の質保証に努めます。

### 教学データに基づいた学生の主体的学修の支援

教学IRデータの蓄積から導かれたKPIによって学生の将来の進路予測を提案できるWILL BEシステムを全学で利用できるようにします。そして、「なりたい自分になる」ために必要な学修とは何かを教員と学生がともに考える体制を作り、学生が主体的に未来を切り開くための学修支援を行います。



## 高度な専門性によりグローバル社会に広く貢献する大学院教育の強化

### 高度な専門性と学識を涵養する大学院教育の強化

専門職業人としての総合力を高めるための教養教育を強化するとともに、イノベーション創出を養成する研究科共通の教育プログラムを提供します。このような大学院教育の強化により、高度技術開発能力やイノベーションの創出能力を備えた人材の育成に努めます。

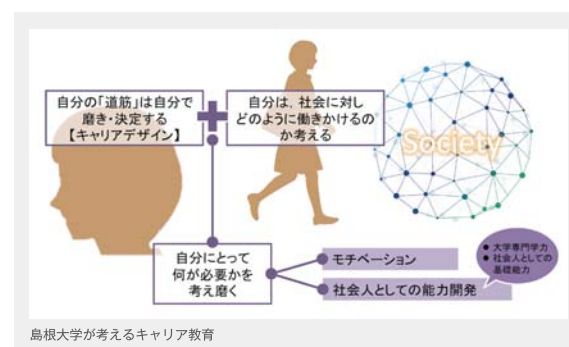
### 異分野連携の学位プログラムの構築

自然科学系における異分野連携の教育組織を整備するとともに、幅広い専門的知識・技能と深い学識を涵養する学位プログラムを構築し、多様化するグローバル社会において広く貢献できる高度専門職業人の育成に努めます。

## 入学前から卒業後まで一貫した学生支援の充実

### キャリア教育の充実による学生のキャリア形成の支援

入学後の学習意欲を高めるための初年次教育科目や低学年からのインターンシップや就業力養成特別教育プログラム等のキャリア教育科目の履修指導、ボランティアや自主企画活動等の正課外活動の支援を積極的に行い、学生のキャリア形成を支援し、就業力や社会人基礎力を養成します。



### 在学生・卒業生の支援体制の充実

入学前授業料免除をはじめとする在学生の経済的支援、心身の相談支援や卒業生も含めた就職支援の体制や同窓会の機能強化を積極的に推進し、在学生と同窓生の支援を推進します。

## 豊富な教育・研究資産を活用した社会人の学び直し教育の推進

### 長期履修学生制度による社会人の受け入れ

大学院における学修時間の弾力化や経済的負担の軽減による快適な学修環境の提供が可能になる長期履修学生制度の積極的活用により、社会人のスキルアップや新たな知識・技能修得を含む学位取得を支援する学び直し教育を推進します。

### 履修証明制度による社会人の受け入れ

総合理工学研究科、生物資源科学研究科および山陰法務教育研究センターで培ってきた教育・研究資産を活用した履修証明プログラムを充実させ、社会人のキャリアスキルアップを支援する学び直し教育を推進します。

履修証明制度		長期履修学生制度	
山陰法務教育研究センター	大学院	大学院	大学院
社会人学び直しプログラム	総合理工学研究科 社会人キャリアアップ メンディグラープログラム	H25-27の実績	H25-27の実績
公共事業推進課 企業連携課 医学部 福祉連携課 工学部	総合理工学研究科 地域活性化人材育成 特別プログラム	医学部 42名 工学部 01名 経済学 04名	総合理工学(42名) 総合理工学(博士前期) 01名 総合理工学(博士後期) 1名 生物資源科学(博士) 3名 法務研究科 1名
H27実績 17名	H27実績 4名 生物資源科学研究科 6名	地域社会や職場等における就業スキルアップ	知識・技能の修得と理論・実践の学び直し
履修証明書の授与		学位の授与	

島根大学が考える社会人の学び直し教育

SMART20

理事  
(教育・学生支援担当副学長)

荒瀬 榮 (あらせ・さかえ)

グローバルな感性と社会人力(人間力)を身に付け、自ら学ぶことのできる人材養成のための教育を推進します。そして、幅広い教養と専門的能力を身につけ社会の発展に寄与できる専門職業人を育成します。

AraSe Sakae



INDEX  
VISION  
教育・学生支援  
企業連携  
学際連携  
国際連携  
経済学  
工学部  
理学部  
農学部  
医学部  
法務部  
国際交流  
地域連携  
就職  
医学部  
産学連携  
卒業生  
監事  
学務部  
島根大学のビジョンと戦略

## 社会のニーズや機能強化の観点から 組織見直しの推進

### 地域課題に 対応した 組織の見直し

少子高齢化や成熟社会に対応した実践的な人材育成の観点から、人文系の教育研究組織の見直しを行い、平成29年度に「人間科学部」を設置するとともに、この新学部を中心として医学部をはじめとする学部間の連携・協力を一層推進します。

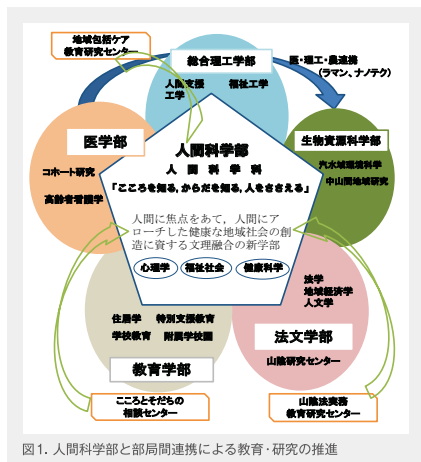


図1. 人間科学部と部局間連携による教育・研究の推進

### 理工系組織の見直しとグローバル化対応

来たるべき超スマート社会に対応した理工系人材育成の観点から、理工系の教育研究組織を平成30年度を目途に見直すとともに、幅の広い理工系基礎教育や英語による授業を強化することで、グローバル化を一層推進します。

## 教育研究の質の向上及び大学運営の 改善のため透明性のある評価活動の推進

### 中期目標・計画の 確実な達成

年度ごとにPDCAサイクルによる自己点検・評価を実施するとともに、進捗管理シートで達成度を確認します。また、自己点検・評価結果を評価配分経費等のインセンティブに反映します(部局評価の実施)。

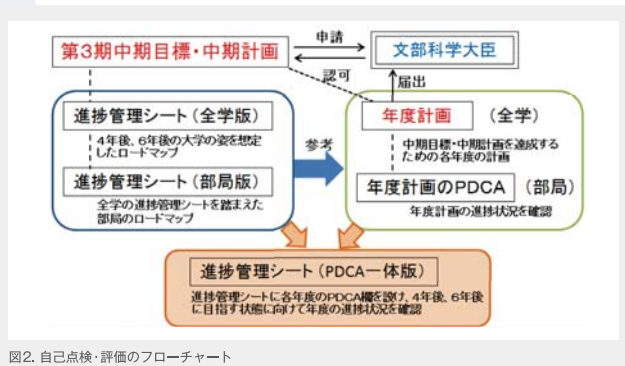


図2. 自己点検・評価のフローチャート

## 地域課題に立脚した研究を推進し、 特色ある分野で世界水準の研究成果

### 古代出雲等の 地域課題に 関する研究

地域産業や地域社会の振興に寄与するため、松江市発プログラミング言語「Ruby」、農林水産業の六次産業化、自然災害軽減、古代出雲、観光など地域課題に密着した研究を推進します。

### 地域包括 ケアに向けた 文理融合研究

少子化・高齢化社会の進展等の地域課題に対応するため、平成29年度に新設される「人間科学部」や「地域包括ケア教育研究センター」を中心に、全学的にヘルスケアシステム構築を目指す、文理融合研究を推進します。



図3. プロジェクトセンターによる学際的研究の推進

### 閉鎖性水域を フィールドと した環境研究

斐伊川水系のフィールドを生かした閉鎖性水域学際研究を先導的に行い、全国的な共同研究拠点の創設を目指し、閉鎖性水域学際研究拠点の確立及び関連水域の世界的な研究ネットワークの形成を図ります。



図4. 閉鎖性水域(穴道湖・中海)

## 全学的に研究連携・支援体制を強化し、重点的な人員配置

### URAの配置

University Research Administrator (URA)を複数配置することで、教員の研究シーズを発掘し、研究の活性化を図るとともに、外部資金の獲得につなげます。

### 学術情報基盤 整備

研究機器の部局を超えた共同利用の促進に向けて、利用情報に関するシステムを構築します。電子ジャーナルの利用状況を調査し、利用促進を図るとともに、効率的な運用を行います。

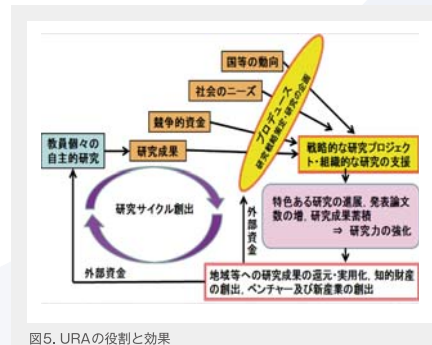


図5. URAの役割と効果

SMART20

理事  
(企画・学術研究担当副学長)

秋重 幸邦 (あきしげ・ゆきくに)

大学の機能強化の観点から、教育研究組織の見直しを迅速に進めるとともに、点検・評価に基づく大学運営を行い、大学の強み・特色の一層の伸長に努めます。地域社会における知の拠点として、地域課題に立脚した研究を推進するとともに、特色のある研究分野を育成し、世界水準の研究成果を生み出します。

Akishige Yukikuni



INDEX  
VISION  
教育・学生支援  
企業連携研究  
経務・学務  
大学経営・財務  
国際交流  
医療・附属病院  
社会連携  
教育・人材改革  
国際交流  
地域連携・貢献  
医学部医務科の将来計画  
監理機構の強化  
鳥取大学のビジョンと戦略



SMART20

理事  
(総務・労務担当副学長)

藤田 達朗 (ふじた・たつろう)

大学のガバナンス機能の強化とコンプライアンスの徹底を通じ、学生、教職員をはじめすべての大学構成員が安心して、意欲的に学び、働ける環境を整備します。また、柔軟な人事・給与制度の運用と男女共同参画事業の推進などにより、多様な人材の確保と大学機能のさらなる活性化を図ります。

島根大学の特色ある教育・研究の姿を生き活きと、また大学が目指す将来像を分かりやすく伝えるため、ステークホルダーを意識した多様な媒体を利用して戦略的に広報を推し進めます。

Fujita Tatsuro



## 高度な教育・研究と地域貢献を遂行するための大学運営

### 学長のリーダーシップによるガバナンス強化とリスク管理の徹底



学外有識者(島根県知事)との対談

学長のリーダーシップのもと、学長補佐体制を強化するとともに、権限と責任が一致した大学運営システムにより、機能的な業務運営を推進します。

経営協議会外部委員、外部有識者及び教職員・学生からの意見を積極的に聴取し、開かれた大学にするとともに、適切なリスクの管理を行いながら、教職員へのコンプライアンス教育を実施することにより、適正な大学の管理運営を行います。



学生との対話を通じた意見聴取

## 大学の姿を生き活きと伝える広報活動

### 大学のブランド力の確立向上と戦略的広報の展開

古代出雲文化フォーラムをはじめ、本学ならではの教育・研究の成果を社会へ発信します。

社会のニーズや動向に応え、大学の見える化を図るため、教育・研究・社会貢献・国際交流等の活動について、わかりやすく公表します。

また、ステークホルダーを意識した効果的な広報ツールを取り入れたコンテンツにより、本学のブランド力の向上を目指し、知名度・存在感をアピールするための戦略的な広報活動に取り組みます。



島根県内各市町村等と共催して毎年開催している古代出雲文化フォーラム

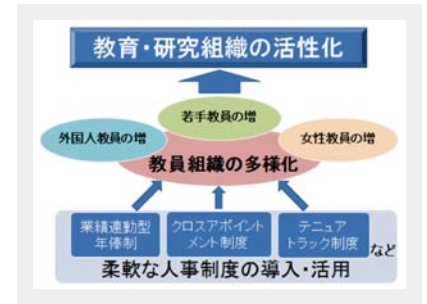


SNSを通じて大学の最新の情報を発信

## 教職員組織の活性化を図り、働きやすい職場環境を整備

### 教職員組織の多様化による組織の活性化

業績連動型年俸制、クロスアポイントメント制度及びテニュアトラック制度等を導入・活用し、教職員組織の多様化(女性教員、外国人数員及び若手教員の増)による教育・研究組織の活性化を推進します。



### ワークライフバランスの推進による働きやすい職場環境の整備

女性活躍推進法や科学技術基本計画等を踏まえ、事業主行動計画を策定して女性研究者(教員)比率及び女性管理職比率の向上をはかります。

また、学長・理事による「イクボス宣言」を受けて、教職員が互いのライフ・デザインを尊重し合える職場の雰囲気づくりや業務改善等を推進し、男女ともに働きやすい職場環境を整備します。



〈学長・理事によるイクボス宣言〉  
ワークライフバランス実現のため管理職が先頭に立つことを宣言

### 大学の教育研究を支える事務組織の改革とスキルアップの強化

社会のニーズに対応する柔軟な教育研究組織を支える事務組織を強化するため、求められる職員像を明確化し、スタッフ・ディベロップメント(SD)を充実し、特定分野での専門性とマネジメント能力を兼ね備えた人材を養成します。



グループワークを中心とした研修

INDEX  
VISION  
教育・学生支援  
企業連携・研究  
総務・労務  
大学経営・財務  
医療・附属病院  
社会連携  
教育・人材改革  
国際交流  
地域連携・貢献  
医学部・医療系研究  
監査機能の強化  
島根大学のビジョンと戦略

松浦 晃幸 (まつうら・あきゆき)

学生、教職員をはじめ地域の皆様にとっても安全、快適で魅力的なキャンパス環境の整備を計画的に進めます。また、教育・研究・診療等を更に充実、発展するため、予算を確実に確保するなど、島根大学の経営基盤を強化します。

Matsuura Akiryuki



## 経営基盤の強化と キャンパス整備等の着実な実施

### 経営基盤の強化

IR機能を強化し、大学が有する教育・研究・財務等に関するデータを集積・分析し、教育や組織・財務の改善を図ります。また、外部研究資金等の予算確保に努め、大学経営基盤の強化を図ります。

### 魅力ある キャンパス整備

学生、教職員をはじめ、地域の皆様にとっても安全、快適で魅力あるキャンパス整備を計画的に進めます。学生食堂の改修に続き、人間科学部の拠点施設や駐輪場の整備のほか、学生食堂ではグローバル化に対応したハラル食の提供を開始します。



松江キャンパス 学生食堂改修(平成27年度)



出雲キャンパス 医学部講義棟改修・外部ハブリックススペース整備(平成26年度)

### 競争的研究 スペースの確保

大学の教育・研究等の更なる機能強化を推進するため、学内施設の改修等を図りつつ、全学共用スペースを確保した上で、教員に提供可能な競争的研究スペースを増やします。



出雲キャンパス 医学部実習棟共用スペース(PUREC)



出雲キャンパス 医学部実習棟共用スペース(オープンラボ)

## 学生、教職員の安全と健康の保持 及び危機管理体制の強化

### 安全と健康の保持

学生、教職員の健康保持のため、大学が実施する健康診断を特定化学物質、有機溶剤を常時使用する学生にも拡大します。また、ストレスチェックシステム等を活用して、教職員のメンタルヘルス対策を推進します。

### 危機管理体制の強化

島根県や松江市等と連携した上で、自然災害等の危機に対する大学の危機管理体制を強化します。また、キャンパス内の避難場所や備蓄倉庫の整備を進めます。



松江キャンパス デジタルサイネージ設置(平成26年度)



松江キャンパス 災害緊急備蓄保管用倉庫

## 研究の健全化及び情報セキュリティー対策の強化

### 研究倫理教育・コンプライアンス 教育の実施

論文の捏造や改ざん、盗用等の不正や倫理に対する問題意識を深め、学内構成員の研究健全化や法令遵守を図るため、研究倫理教育を実施します。また、コンプライアンス教育の質を高め、公的研究費等の適正な管理・使用の意識の向上を図ります。



研究倫理に関する講習会



個人情報保護法・情報セキュリティー研修会

### 情報セキュリティー 対策の強化

大学が有する様々な情報を確実に保護するため、情報セキュリティー対策を強化します。また、学内構成員の意識の向上を図るため、情報セキュリティー教育を実施します。



ITリテラシー研修



SMART20

理事 (医療・附属病院担当副学長)

井川 幹夫 (いかわ・みきお)

「地域医療と先進医療が調和する大学病院」を理念とし、患者さん中心の医療の提供、人間性豊かな医療人の育成、地域社会に還元できる臨床研究の推進を目標として病院運営を行います。

Igawa Mikio



# 国際的視点を持ち、地域社会の変化に対応できる医療人の養成、先進的医療、高度医療および臨床研究の推進

## 先進的医療、高度医療の推進

県内唯一の特定機能病院として病院再開発事業により大幅に向上した病院機能をフルに活用し、さらに手術室を拡充するなど高度で先進的な医療を継続的に推進します。心血管疾患、脳神経疾患に対する高度医療実施、周産期医療の充実、難病に対する包括的な診療および支援の実施に向けて体制整備を図ります。



〈地上型ヘリポートと病棟全景〉  
病院再開発で病床数を616床から600床として1床当りの面積を拡大し、個室を増やして療養環境の向上を図りました。ICU、NICU、GCUの増床、手術室の増室などで病院機能を強化しています。

## 救急医療の充実、特に外傷救急の充実

救命救急センター機能の拡充、高度外傷センターの設置により外傷救急機能を付加して県内における不慮の事故死亡者数の減少に寄与するなど、島根県全域を対象とした救急医療の向上に主要な役割を果たします。平成28年度中に高度外傷センター棟を建設、ハイブリッドERを設置します。



高度外傷センターの完成イメージ

**ハイブリッドER**

- 救急初期処置
- 緊急CT
- 緊急血管造影
- 緊急手術

を同時に実施

今後、日本でハイブリッドERを導入する施設は増えていく(大学病院でハイブリッドERを持っている大学はない！)

## 臨床研究体制を強化

臨床研究の支援体制(臨床研究、医療倫理、医療統計の研修会、セミナーの開催等)を整備し、臨床研究センターの治験管理部門と臨床研究部門が主導して高い医療倫理に基づいた質の高い臨床研究と治験を実施します。

## 再生医療の推進

平成28年1月に設置した再生医療センターの本格稼働により、閉鎖性無菌細胞調整システム(CPWS)を活用した高品質の特定細胞加工物の製造等、安全性を十分確保した再生医療の実施体制を構築します。特定細胞加工物と再生医療実施件数の増加と治療成績の向上を図ります。

**重症低ホスファターゼ症に対する骨髄移植併用同種間葉系幹細胞移植**  
〈島根大学発世界初の試み〉

低ホスファターゼ症！  
石灰化障害で骨が消失し、致命的な経過をとる

骨を再生する！  
間葉系幹細胞

骨髄移植

同種間葉系幹細胞移植

移植後1年

〈間葉系幹細胞を用いた再生医療〉  
閉鎖性無菌細胞調整システムを活用した再生医療に関する臨床研究が可能となっています。低ホスファターゼ症による骨形成不全に対して、骨髄移植併用同種間葉系幹細胞移植を実施し、有効性が確認されています。

## がん診療において県内で主要な役割

自治体、地域医療機関との連携を強化し、都道府県がん診療連携拠点病院として、島根県のがん診療のハブ機能を担い、就労支援を含めたがん相談体制、希少がん、小児がん等の診療において中心的な役割を担います。

## 環境への配慮と職場環境改善

全国で最初に「ISO14001」と「働きやすい病院評価」の認証を受けている大学病院として、光熱水料の増加抑制など環境に配慮し、かつ、男女共同参画を推進してイブニングシッター制度の導入、女性医療従事者の復職・育児支援等による就業形態の改善を行います。

## 地域包括ケアで活躍できる医療人を養成

総合診療に重点を置いた地域医療実習、臨床研修、海外での地域医療研修などを実施し、高齢化先進県である島根県において地域包括ケアでリーダーとなる総合診療医等の医療人を養成します。地域包括ケアコンソーシアムの定期的開催等、未来医療研究人材養成拠点形成事業(地方と都会の大学連携ライフィノベーション)を引き続き推進します。

## 医師偏在、診療科偏在の解消に向けた取り組み

一般社団法人「しまね地域医療支援センター」と連携し、当院が基幹施設として平成30年度開始予定の新専門医制度研修プログラムを活用してリサーチマインドを有し、高齢社会に対応できる専門医を養成するとともに、当院の医師派遣検討委員会と連携して、医師不足地域にも配慮した医師配置を行うシステムを構築し、運用します。

## 病院経営の基盤強化と地域の医療機関との連携推進

病院経営の基盤強化を図るため、「病院経営改善目標値」を設定するとともに達成状況を検証し、病院収入を増加させます。また、臨床研究を活性化し、治験等による外部資金を獲得します。他の医療機関と高額医療機器の共同利用などの連携推進について検討を開始します。

文部科学省 未来医療研究人材養成拠点形成事業  
"地方と都会の大学連携ライフィノベーション"

3大学が連携し、相互補完(人材交流)と人材育成体制の構築

島根大学  
主幹的「地域包括ケア人材」担い手養成拠点  
研究科領域別「フェスティバル」の開催

地方  
総合診療、先進医療等中心  
企業等の地域医療に「スマート」連携  
高齢化先進県で地域医療実習等  
近未来の都市圏連携「フードバック」

都会  
グローバルリーダー養成拠点  
研究開発・国際研究人材育成  
フェスティバルの開催

兵庫医大  
都市型「地域包括ケア人材」養成拠点  
都市型「地域包括ケア」フェスティバルの開催

地域包括ケアリーダー  
求められる総合診療医  
※リーダーシップ  
※多様なニーズへの対応力  
※リサーチマインド

基本コース ※総合診療育成コース  
選択コース ※地域包括ケアリーダー養成コース  
※地域医療の研究育成コース  
※グローバルリーダー養成コース

リサーチマインドを持った総合診療医

〈総合診療医等の養成〉  
文部科学省の採択事業を継続し、地域医療においてリーダーシップを発揮し、リサーチマインドを持った総合診療医を養成します。

INDEX  
VISION  
教育・学生支援  
企業・産学連携  
経営方針  
大学経営・財務  
医療・附属病院  
社会連携  
教育・人材改革  
国際交流  
地域連携・貢献  
医療・産学連携の将来計画  
診療機能の強化  
島根大学のビジョンと戦略



## 地域社会との連携強化、社会貢献活動の展開及び同窓会組織の強化

### 産・官・学・民の連携の強化

本学が蓄積する研究の実績と成果を基盤に、地元自治体、産業界及びNPO法人等を含めた域学連携を強化し、地方創生に貢献します。産学連携センターでは、産学官連携の拠点として大学の総合的窓口機能を担い、民間等との共同研究、受託研究及び科学技術相談対応などの業務を通じて社会との連携強化を図ります。

### 知の拠点としての機能の充実・強化

本学が有する人的・物的及び学術的資源の一層の充実・強化を図るとともに広く地域に提供(公開)し、地域の知の拠点として社会貢献機能を果たします。

例えば、教育学部内にある「こころそだちの相談室」を企業と連携したメンタルヘルス対応など、時代のニーズに合わせた心理的サポートをより広く県内外で行うため、「こころそだちの相談センター」として拡充し、社会との連携をより強化します。

### 同窓会の組織強化と連携

本学が「地域に貢献する大学」として地域における存在価値を一層高め、地域と共に発展していくために、大学のかけがいのない理解者、支援者である同窓会の組織強化を図り、同窓会との緊密なネットワークと良好なコミュニケーションを構築し、これを資産として社会貢献活動や学生支援活動に繋げて行きます。

なお、母国に帰国した留学生たちによる海外同窓会を拡充し、帰国後のサポート体制を強化すると共に、同窓会を通じた留学生増加の推進を図ります。



公開セミナーでの研究発表



こころそだちの相談室で行われている箱庭療法の作品



島根大学、島根大学同窓会連合会主催のホームカミングデー「全体企画」



2015年、スリランカで島根大学出身者により同窓会が設立され、学長も出席し連携を強める

## 島根大学型特別入試の導入と教育改革

### 高大接続事業の積極的展開

高大接続事業が掲げる「学力の3要素」を正當に評価する入試制度の確立と、大学入学後も高等学校で培われた「学力の3要素」をさらに陶冶する教育体制の整備を図ります。具体的には、「育成入試(仮称)」を中心とした入試改革を行い、3ポリシーの見直しと連動した能動的授業を充実させます。



岡枝島での地域貢献人材育成入試説明会

### 育成型入試の実施地域に貢献する人材の育成

従来の推薦入試・AO入試を抜本的に見直し、新たに「育成入試」を導入します。「育成入試」の特徴は、「受験前指導・教育」と「入学前教育」にあります。Webシステムや面談を通じた双方向型対話によって、受験前や入学前の段階での高校生の悩みの解消、自己の進路の明確化を図ります。

### 2つの多様性を軸とする教育改革

現在行われているフィールドワーク型授業や課題解決型授業を、さらに充実させていきます。それにより「学力の3要素」に対応した、学生が自己の持つ多様な能力を伸ばすことが可能となります。一方、あくまで専門教育を中心としながらも、地域研究や外国語能力など多様な学問領域を修得できる教育制度も確立します。専門の学問に専心する学生、複数の学問分野を横断的に修得する学生、学問選択の多様性を保証します。



外国語教育科目成績優秀者表彰式



大阪文楽劇場での文楽実習旅行

SMART20

理事  
(社会連携担当)(非常勤)

江口 博晴 (えぐち・ひろはる)

山陰の地域課題に立脚した教育や特色ある研究を推進するとともに、大学が有する知的・人的・物的資源を行政や文化、福祉、医療、産業振興などに積極的に活用し、開かれた地域拠点大学として地域社会の発展に寄与します。

また、地元自治体、産業界及びNPO等民間との連携を強化し、地域創生に貢献するなど積極的に社会貢献活動を展開します。

Eguchi Hiroharu



SMART20

副学長  
(教育・入試改革担当)

武田 信明 (たけだ・のぶあき)

島根大学の入試制度を大胆に改革します。目標は受験生の持つ多様な能力と多様な可能性が正當に評価されるような入試制度です。また入学後の大学教育においてもその多様性にさらに磨きかけられる教育制度改革も実行します。

Takeda Nobuaki



INDEX  
VISION  
教育・学生支援  
企画・学生研究  
企業・産業界  
経済・労働  
大学・学務・財務  
医療・国際関係  
社会連携  
教育・入試改革  
国際交流  
地域連携・貢献  
医学・医療系・将来計画  
監事・事務の強化  
島根大学のビジョンと戦略

出口 顕 (でぐち・あきら)

急速に進む国際社会のポーターレス化に対応できる人材の育成は地方でも喫緊の課題です。そのため学内のグローバル環境を整備して学生の海外派遣を積極的に推進するだけでなく、留学生に対する支援を強化しさらなる留学生の増加につなげます。そして留学生と海外派遣を体験した学生が地元で就職し地域を活性化できる人材になれるようなプログラムを、地域企業と協力して推進していきます。

*Dequchi Akira*



## 国際社会に通用するグローバルな感性の育成とそれによる地域貢献の推進

### キャンパスのグローバル環境整備

海外協定校での教員の英語研修プログラムや外国人教員数の増加によって、英語での授業を拡充するだけでなくグローバル化に関する授業を増やして、学生がグローバルマインドを養えるようにします。さらにキャンパス内いながら学生が国際感覚を身につけられる活動を充実させます。



学生ボランティアが、海外からのゲストに英語でキャンパスを紹介する、島大キャンパスアンバサダー

ダブルディグリー制度をはじめとする、海外の協定校と連携した多彩な海外研修プログラムを整備して学生の留学や派遣の機会拡大を推進します。さらに、さくらサイエンスなどの事業を通じて、海外からの学生を招きアカデミックな交流を積極的に推進します。留学生に対しては日本人学生によるチューターなど、きめ細かな支援が得られるようにします。



アーカンソー大学での英語研修に参加した島根大学生

### グローバルとローカルをつなげることによる地域貢献

トビタテ留学JAPAN全国枠や同「地域人材コース」などのプログラムを活用して、海外研修や留学を経験した学生が、地元企業でインターンシップを経て地域の企業に就職し地域のリーダーとなり、地域の活性化に貢献できるよう支援します。



トビタテ留学JAPAN全国枠でイタリアに留学しフィールドワークに参加した総理工学部の学生

地元企業の寄付による「島根大学留学生支援基金」を活用して、地元企業にインターンシップする留学生に奨学金を支給する制度を積極的に推進します。それにより、海外からの留学生が地元企業に就職し地域に定着して地域の活力とされるように支援します。



地域住民から手ほどきを受け農作業を体験する留学生

## 地域を支え、発展させる「地域未来創造人材」の育成

### 地域志向型の人材育成

地域で活躍する志が高い学生を入学させる「地域貢献人材育成入試」を全学部で実施します。入学した学生(COCコース生)は「地域未来創造人材育成特別専攻プログラム」により育成し、地域への定着を図ります。さらに全学生を対象に「地域志向型初年次教育科目」の必修化、新たな「地域志向型キャリア教育」の実施等、入学から卒業までの一貫した地域志向教育を強化し、地域に定着し活躍する人材の育成と輩出に取り組みます。



COCコース生の授業風景

### 地域と共に学び・育てる協働体制

地域の高等教育機関と企業・NPO・行政等が「共に学生を育てるための理念・育成ビジョン・教育スキル」を共有し、連携して地域志向教育や地域インターンシップ等を行う「しまね協働教育パートナーシップ体制」を構築します。これを基盤に地域社会全体で地域創生の核となる「地域未来創造人材」を育成する教育活動を推進します。



### 多種多様な出会いによる新産業やイノベーションの創出

地域企業・NPO・行政等の多くの皆様と本学の教員や学生が集い、互いに魅力や活動を発信・交換する「しまね大交流会」を開催します。多様な人々が出会うことにより、ニーズとシーズのマッチング、アイデアの醸成、新たなネットワークの形成、共同研究の推進等の機会が生まれます。これにより新産業やイノベーションの創出を加速します。



大交流会の様子(全体)



大交流会の様子(パネル展示)

### ふるさと魅力化人材養成

人口減少・少子高齢化の先進地に位置する大学として先進的に開講した、「ふるさと魅力化フロンティア養成コース」により、島根県地域の活性化だけではなく、同様な課題を抱える全国各地に「活性化を担う人材養成モデル」を発信し、全国の地域創生に貢献します。

佐藤 利夫 (さとう・としお)

文科省に提案・採択された「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」及び「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス事業)」を根に、地域の課題・魅力・強みを知り、地域の課題解決や活性化に、自分の専門性を活かし活躍するマインドとスキルを養う「地域志向教育」を充実します。また地域の課題解決や地域資源を活用した新産業の創出等を目指した「地域志向研究」を地域と協働して推進する環境を整備します。

*Sato Toshio*



# SMART20

副学長  
(医学・医療系の将来計画担当)

## 大平 明弘 (おおひら・あきひろ)

島根大学医学部は過疎や高齢化等、島根県が抱える地域医療課題解決に貢献する「地域医療人の養成」を目指しています。現在の取り組みを継続して地域医療人の養成を行うことによる量的拡大を図ると共に、是非行われなければならないのは質的な充足です。先進的で高度な医療水準を保持するためには継続的なイノベーションが行われる必要があります。そのために、島根大学の特色となる先駆的研究分野へ果敢に挑戦します。

*Ohira Akihiro*



## 健康寿命を延ばすために

平均寿命と健康寿命(日常生活に制限のない期間)の差は、平成22年において、男性9.13年、女性12.68年となっています(図1 a, 1b)。この差を短縮することは、今後の超高齢社会を迎える我が国にとって最重要課題と言えます。健康寿命を延ばすには、長寿遺伝子を活性化させ、食事、運動、前向きな生き方の3つが柱となります。

健康寿命を延ばす取り組みとして、地域社会に参加することにより、継続的な生き甲斐作りなどが行える環境を構築します。

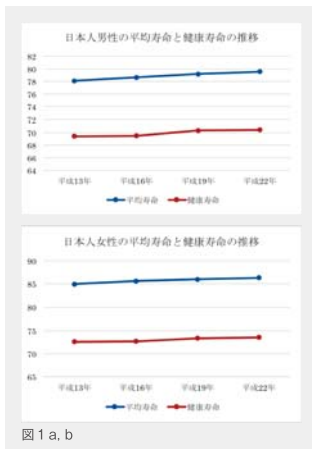
## 将来の科学技術の発展のため、若手研究者に恵まれた研究環境整備

資源に乏しい我が国では創薬開発は注目すべき事象です。現在世界で、真の新薬を発見・開発できる国はアメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、スイス、日本の6ヶ国しかありません。通常、新薬の開発には莫大な資金が必要となりますが、膨大な化合物の中から超高速コンピュータで候補化合物を予測する技術は、これまで9-17年も掛かっていた新薬開発期間を大幅に短縮し、個体差を決めている遺伝子情報の分析を相まって、創薬の可能性が広がると予想されます。島根大学にこのような将来性の高い分野での飛躍を齎す必要があります。

## ロコモティブ症候群に対する新企画

健康寿命の延長にはロコモの改善は有効です(図2)。運動器障害とともに、視覚、聴覚、歯科の感覚器官の機能強化は重要な問題解決となります。単なる介護ロボットではむしろ筋肉の萎縮を招き筋力アップには繋がりません。患者自身の動かそうとする神経の電位を読み取り、五感への刺激、認知症の改善など加味した新たな機器開発は、健康寿命の促進につながります。人工網膜や人工聴覚の開発はメディカル・イノベーションへの道を切り開きます。世界的な所有権機構(WIPO)は、技術の革新を生み出す環境が最も整っている国はスイスで、日本は16位だとする調査結果を発表しました(図3)。

島根大学の置かれている環境はこれらの分野に関し、未知の領域ですが、いずれもここ5、6年の間に新たな研究分野として注目を浴びているため、新規参入の可能なものと考えられます。各部局の壁を超えて、分野融合的な教育研究の体制を整備し、世界に誇る独創的な学術研究を推進します。



スイスでは、人口も少ない酪農中心の農業国でありながら、大きな製薬会社があることと、観光産業等が盛んで世界中から人が集まることの2点において、開発力を保っています。島根においても、外国や日本の各地との人の往來を高める観点から、競争力を向上させる方策を検討します。



# SMART20

## 監事機能の強化

私たち2名は、外部から監事として文部科学大臣に任命され、常勤と非常勤とで役割を分担して国立大学法人の業務の監査を行っています。また、監査の結果に基づき、必要があると認められるときは、学長または文部科学大臣に意見を提出する権限と責任を有しています。

監事の機能については、平成27年3月の独立行政法人通則法の改正において監事の監査機能の強化が図られ、その後も引き続き、学長のリーダーシップ強化に伴う監事等による学長の業務執行のチェック機能の確保について議論されているところです。

私たちは、これまでの民間企業や他大学での経験を活かし、独立した立場を保持しつつ、実行性ある監査と規律付けを行い、島根大学の健全な発展に寄与していきたいと考えています。

## 幅広い監査の実施

毎年度はじめに監査の年度計画を策定したうえで学長に提出し、教育研究や社会貢献の状況、大学ガバナンス体制等を含む広い範囲の監査を実施します。

学内法定会議など大学や附属病院の意思決定に係る重要な会議だけでなく、教育研究や社会貢献に係る重要な会議にも出席をし、必要に応じて監事としての意見を述べます。

## 内部統制システムについての監査と助言

平成27年3月の独立行政法人通則法の改正において制度化された内部統制システムについて、他大学及び民間企業の事例等を参考にしながら、島根大学にふさわしい整備と運用が進められるよう、監査を実施し、その結果を基に必要な助言を行います。

## 双方向のコミュニケーションの促進

適切かつ効率的に監査を実施していくためには、何より情報の収集と監査の環境の整備が不可欠です。大学からのサポートを得ながら、学長をはじめ役員および職員との意思疎通や、会計監査人および(内部)監査室との連携を進めていきます。



# SMART20

監事(常勤)

## 千家 充伸 (せんげ・みちのぶ)

*Senge Michinobu*



# SMART20

監事(非常勤)

## 篠塚 英子 (しのづか・えいこ)

*Shinotsuka Eiko*



INDEX  
VISION  
教育・学生支援  
企業連携  
国際交流  
経済連携  
学務  
財務  
大学経営  
医療・創薬  
社会連携  
教育・人事改革  
国際交流  
地域連携  
学術  
医学・医療系の将来計画  
監事機能の強化  
島根大学のビジョンと戦略

# 島根大学の ビジョンと戦略

— 地域に活き世界で輝く大学を目指す —  
新たな展開と挑戦

## 背景

本学の基本理念として島根大学憲章を平成18年(2006年)4月に制定した。そこでは、学術の中心として深く真理を探究し、専門の学芸を教授研究するとともに、教育・研究・医療及び社会貢献を通じて、自然と共生する豊かな社会の発展に努めることとした。とりわけ、世界の視野を持って、平和な国際社会の発展と社会進歩のために奉仕する人材を養成することを使命と定め、以下の実践を掲げた。

1. 豊かな人間性と高度な専門性を身につけた、自ら主体的に学ぶ人材の養成
2. 特色ある地域課題に立脚した国際的水準の研究促進
3. 地域問題の解決に向けた社会貢献活動の推進
4. アジアをはじめとする諸外国との交流の推進
5. 学問の自由と人権の尊重、社会の信頼に応える大学運営

さらに、同年、島根大学憲章に基づき、第2期中期目標期間までの行動指針として「島根大学憲章を推進するためのアクションプラン」を策定した。

一方、第2期中期目標期間において、国立大学の社会における役割・使命の見直し観点からすべての国立大学にミッションの再定義が求められ、本学においても各分野(学部)におけるミッションの再定義を行った。

また、地域にある国立大学「地(知)の拠点」として地域創生に資する期待が増してきている。このような状況を踏まえ、第3期中期目標期間さらには第4期中期目標期間を見据えた将来構想を描きながら、本学の将来ビジョンと行動戦略を示すために「島根大学未来戦略(SMART20)」を策定する。この未来戦略は、島根大学憲章の理念のもと、本学が描く将来のビジョンを達成するための戦略を示すものであり、特に第3期中期目標・中期計画を推進するにあたって目指す方向性を明確にするものである。

本学は中期目標・中期計画と本戦略に基づく運営の下に教職員・学生が一体となって新たな局面を切り拓き、国の内外においてその存在感を示す大学を構築する。

## ビジョン

島根大学は、山陰地域における「知と文化」「医療」の拠点として培ってきた伝統と精神を重んじ、大学としての強み、特色、地域との協創を強化し、地域活性的の中核としての機能を充実させ地域の創生に貢献すると共に、特定分野において世界をリードする教育研究拠点として、「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝くオンリーワンの大学」を目指す。また、総合大学としての強みを最大限に発揮し、グローバルな感性と豊かな教養、そして高い専門性を身につけ地域、世界で活躍できる学生を養成することにより、社会の維持・発展に寄与する。

## 教育

豊かな教養、高度な専門性、グローバルな感性を醸成し、地域や世界で活躍する学生を育成する

### 1 基本ポリシーに基づく 学士課程教育による確かな学士力の養成

- 豊かな人間性と教養、高度な専門性を身につけさせるため、総合大学としての強みを最大限に生かした一体的で明確なディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーに基づく体系的な学士課程教育を実施する。
- 全学的な教学マネジメントのもとで教育の質的転換を図り、主体的な学習を促進する。

### 2 地域創生の中核となって 活躍できる学生の育成

- 地域創生の中核として活躍できる資質や様々な課題を解決する能力を向上させるため、地域における課題を多様な方法・視点で検証し、地域と協創して解決するなど地域実践型の教育を推進する。

### 3 グローバルな感性を持ち、 広く国際社会で活躍できる学生の育成

- 外国人留学生、外国人教員や英語による授業科目の増加、ダブルディグリー等の新しい学位制度の設置等、学内のグローバル化を推進し、学位の国際通用性を確保する。
- グローバルな感性を涵養し、広く国際社会において活躍できる高度な専門性と応用力、創造力を育成するため、海外派遣留学を推進する。

### 4 高度な専門性によりグローバル社会に 広く貢献する大学院教育の強化

- より高い専門的知識・技術と共に、発想力、マネジメント力を備え、イノベーション創出に資する能力を向上させるため、高度な学問的専門性の確保とともに、産業界や自治体等との連携を強化し、専門分野の枠を超えた体系的・組織的な大学院教育を推進する。

### 5 高大接続の強化と入試制度の改革

- 中国地方5県の高校や教育委員会等との緊密な連携による高大接続事業を実施する。
- 入試制度を改革し、入学志願者の能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価する育成型入試を開発・実施する。

### 6 入学前から卒業後まで一貫した 学生支援の充実

- 授業料免除や授業料奨学融資制度等の経済的な修学支援を充実させる。
- 学内における学生修学・厚生施設を活用し、多様な学生に対する相談体制を整備し、修学を支援する。
- キャリア教育の充実を図り、低学年からのインターンシップ等と併せて学生のキャリア形成を支援する。
- 学生・就職支援体制や同窓会の機能強化を積極的に推進し、在学中のみでなく卒業後までためた在学生・同窓生の支援を充実させる。

## 研究

多様な研究を推進することで、様々な課題を解決する研究成果を創出し、新たな価値を創造する

### 1 多様な基盤的・先進的研究の 推進による研究力の向上

- 教員個人の学問的興味・関心に基づいた多様な研究の推進及び研究水準の向上を行い、研究成果を教育に活かすとともに社会に還元する。
- UR Aの活用等により科学研究費補助金等外部資金の獲得を増加させるなど、研究推進のための財政的基盤を強化する。

### 2 特色ある研究の重点的推進

- 特色ある研究を重点的に推進し世界水準の研究成果を挙げ、国内外における拠点となる研究分野を創出する。

### 3 地域社会における課題の解決に資する 研究の推進

- 地域社会における課題の解決に資する研究や産学官連携研究を推進し、地域の創生・発展に貢献する。

### 4 研究不正に関する コンプライアンスの徹底

- 「公正な研究遂行のための基本方針」及び「公正な研究遂行のための行動規範」に基づき、研究の健全化を徹底する。
- 研究費等の適正な管理及び不正防止体制を強化するとともに、学内構成員への研究倫理教育を実施し、公的研究費等の適正な管理・使用を徹底する。

## 地域・社会貢献

「地知」の拠点として地域に貢献する  
地域・社会との連携を強化し、

### 1 地域社会における「知」の中核として 地域創生に貢献

- 地域社会との連携を強化し、全学をあげて地域志向の教育及び研究の一層の伸展を図り、地域貢献人材の育成や地域の課題解決に資する教育・研究を展開する。

### 2 社会人学び直し機能の充実による 地域・社会貢献の推進

- 社会人の学び直しを促進するため、社会人にとって学びやすい学修環境を整備するとともに、産学協働によるカリキュラム開発を実施する。

### 3 地域における医療の中核としての 機能の充実

- 国際的視点を持ち、地域社会の変化にフレキシブルに対応できる医療人を養成して地域医療水準の向上に貢献する。
- 附属病院においては、先進的医療、高度医療及び臨床研究を推進するとともに、働きやすい職場環境と強固な経営基盤を確立し、島根県の中核病院としての機能を果たす。

### 4 地域の実践的実践校としての 附属学校の機能強化

- アクティブ・ラーニングの充実や特別支援教育の充実などの初等中等教育における新たな教育課題に対応するため、附属学校の機能を強化し地域の実践的実践校としての役割を担う。

## 大学運営

学長のリーダーシップのもと、構成員が最大限活躍できる環境の整備と組織改革を行い、持続的発展を目指した大学経営を行う

### 1 学長のリーダーシップによる 機能的業務運営の推進

- 学長のリーダーシップのもと、学長補佐体制を強化するとともに、権限と責任が一致した大学運営システムにより、機能的な業務運営を推進する。
- IR機能を強化し、教育・研究・財務等に関するデータを集積・分析し、教育や組織・財務の見直し等、エビデンスに基づく大学経営を実施する。

### 2 学内外からの積極的な意見聴取による 開かれた大学運営の推進

- 経営協議会外部委員や外部有識者及び教職員・学生からの意見を積極的に聴取し、開かれた大学経営を推進する。
- 学長・理事・副学長と学部長・研究科長等による緊密な意見交換により、全学の経営・運営についての意思統一を図り、全学一体となった大学改革を推進する。
- 監事へのサポート体制の一層の充実を図り、教育研究や社会貢献の状況、大学ガバナンス体制等を含む監査機能を強化し、その結果を業務に適切に反映させる。

### 3 全学における機能強化の観点からの 組織改革

- 社会のニーズや機能強化の観点から、全学の教育・研究組織の見直し、資源の再配分を行う。

### 4 ワークライフバランスの推進と より良い学習・職場環境の構築

- ハラスメントがなくなるすべての学生、教職員にとって快適な明るい学習・職場環境を築く。
- 男女共同参画を推進するため、女性支援体制を強化するとともに、仕事と家庭の両立支援のための学内環境を整備する。

### 5 ブランディングと 戦略的広報によるブランド力向上

- 地域やステークホルダーを意識した戦略的広報を展開し、ブランド力を向上させる。

### 6 経営基盤、経営力の強化

- 地域社会や同窓会との連携強化による寄付金収入、病院収入の増加により、経営基盤を強化する。
- 業務改善、教職員の資質向上のための取組を推進し、経費の抑制を徹底する。
- 学長のリーダーシップのもと、マネジメント能力を有する大学経営を担う人材の計画的な育成・確保を行う。

島根大学公式  
マスコットキャラクター  
「ビビットくん」



INDEX  
VISION  
教育・学生支援  
企業・社会研究  
経営・財務  
大学経営・財務  
医療・附属病院  
社会連携  
教育・人証改革  
国際交流  
地域連携・貢献  
医療・医療の将来計画  
監務の強化  
島根大学のビジョンと戦略